

「英語科 教科書の映像化による理解の向上に向けて」

ー 全員が理解できる授業づくりを目指して ー

土田 友信

金沢大学大学院教職実践研究科 学習デザインコース

【概要】本研究は英語科において、教科書の内容を、ICT を活用し映像化することで、英語が苦手な生徒や発達障害傾向のある生徒、また英語が得意な生徒も理解しやすい授業づくりを目指したものである。ほぼ全ての単元で教科書本文の内容と新出単語を映像化した教材を考案し、どのような教材であれば、また、どのように展開すれば、よりよい理解の向上となり得るのかを研究した。中長期に渡り研究を実施し、アンケート結果をもとに映像化教材とその使用手順の改善を図り、生徒にとって理解しやすい授業を探った。本研究の結果、若干の課題は残したものの、多くの生徒にとって理解しやすい教材とその活用法を考案することができたと考えている。本研究は、様々な学力や特質を持つ生徒に、わかりやすい授業を行うための提案である。

I 研究の動機・目的・方法

1 研究の動機

(1) 困難な授業…

中学校を卒業した生徒が、将来国内外で臆することなく英語でコミュニケーションをとることができる姿勢を身につける、ということはすべての英語教員の願いであろう。私も学生時代に初めてイギリスに留学した当初、多くの日本人が直面するスピーキングの壁に悩まされた。なぜ中学校時代から実践的な英語学習が行われなかったのか自問自答し、帰国後は自らがその実践者になろうと英語教員を志した。

しかし、実際の教育現場は理想とは裏腹に仕事に忙殺される日々だった。授業では、基礎学力が定着しどんな課題も意欲的に取り組むことができる生徒もいる一方、学習が苦手な子に加え、発達障害傾向のある生徒が授業についていけず、授業とはかけ離れた行動をとる場面に出会うこともあった。もはや 40 人学級の生徒一人ひとりに教師が一人に対応することに限界を感じ始めていた。

(2) 全員が参加できない授業

他の先生方の授業の様子を見聞きしている中で、興味深い事実に出会った。それは他の先生方も私と同様に学習が苦手な子や発達障害傾向の生徒達への対応に苦慮していた。特にその年は、ADHD（注意欠陥多動性障害）傾向の生徒に苦慮していた。

上記のような生徒がいる一方で学力優秀な集団も学級内に存在する。40 人学級という様々な学習者を、どのように授業者としてまとめ上げ、教科の専門性を踏まえて学習成果を出していけばよいのか、毎日が苦悩の連続であった。

(3) 通常学級における発達障害の現状

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課による「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」（平成 24 年）では、小学校から中学校まで約 4 万人弱を対象にした調査が行われた。その結果、「知的発達に遅れはないものの学習面や行動面で著しい困難を示すと担任教師が回答した児童生徒の割合」では、6.5%の児童生徒が「学習面か行動

面で著しい困難を示す」と回答している。

この数値で見えていくと 40 人学級の場合、概して 2 人以上在籍することになる。

(4) 一斉指導は限界か？

一人の教員が 40 人学級で指導していると十分な個に対する支援体制を築くのは困難である。しかし、現場では困難を抱えた生徒に対して授業中に個別に関わる必要性が謳われている。40 人を指導する中で一対一の状況を作り出し、個別の支援を行う…これは確かに理想であるが、実際はそう簡単なことではない。

昨今の現場を見てみれば、授業の準備に迫られる教師が授業時間以外の放課後などに個別に指導する時間を十分に確保するのは難しい。また、ノート点検も個別につながる手段ではあるが、多くの校務分掌を抱える教師がノート点検をするのは夜遅くになることもしばしばある。

やはり根本は授業であることを痛感し、以下が私の研究動機となった。

(5) 研究の動機

本研究の動機は、英語科の授業において、すべての生徒が理解できるようにしたいと痛感したことからである。

2 研究の目的

(1) わかる授業の必要性

英語が苦手な子や発達障害傾向のある生徒から英語に興味を持つ生徒、全ての生徒を巻き込む授業づくりを考えた。

そのためには「わかる授業」である、ということが大前提となる。英語科は、英語教員の間では「積みあげ教科」と言われている。

学習の初期段階で英語が苦手になってしまった学習者を、中期段階で理解させるには多大な労力が必要となる。

初期段階から全ての学習者にとってわかりやすい授業を行うことが必要であり、つまりい

た学習者にはいち早く理解を促す教材や授業づくりが必要である。

そこで、ICT 活用の効果に着目した。

(2) ICT 活用の効果について

教科指導における ICT 活用による効果については、これまでの調査研究などから明らかになっている。

文部科学省委託事業により実施された「ICT を活用した指導の効果の調査」において、ICT を活用して授業を行った教員の 98.0% が特に「関心・意欲・態度」の観点において効果を認めており ICT 活用によって児童生徒が授業に集中し楽しく学習できるようになることなどについても、多くの教員が効果を認めていた。（教育の情報化に関する手引 第 3 章より）

(3) 映像化教材の提案

そこで、英語をよりよく理解するために、ICT 教材を提案する。具体的には、外国語である英語を理解するための手段として内容を「映像化」し、それにより、英語（内容）のイメージをより多くの生徒に持たせることをねらう。

「映像化」の理由は、現場での実感が元になっている。英語を、日本語を介して理解する方法では教師の説明に時間がかかる傾向がある。説明に時間がかかるということは、生徒により長い時間に渡って集中し続けることが求められる。集中力が持続しない生徒は話を聞いていない状態になり、そのため理解不足に陥る結果となる。

もし英文の内容を映像化し、映像を見る中で内容などを把握させることができれば、理解がより短い時間でなされ、どの生徒の集中力も持続できるのではないだろうか。

(4) 教科書の映像化

そこで具体的に映像化するものを考えた。授業で利用する教材は主に教科書である。教科書には英文と新出語句が書かれているが、その英

文と新出語句をすべて映像として表す手だてをとることにした。

(5) 研究の目的

以上の点から本研究の目的を以下のように設定した。

英語科の教科書の英文と英単語を映像化した授業を展開することによって、すべての学習者の理解力向上を図ることを目的とする。

3 予備実践

(1) 研究への予備実践

研究への予備実践として 2016 年度、金沢大学附属中学校にて飛び込み授業を行った。映像化した教材をどのように開発すればよいのか、まだ模索している時期での授業実践であり、開発途上のものを使用しての実践であった。

しかし、この実践を行うことによって、よりよい教材の在り方を検討することができ、教材の開発と活用の仕方を考えることができた。

実践は、1 年生の 2 クラスで授業を行った。授業箇所は PROGRAM 5 「国際フードフェスティバル」である。教科書を映像化した教材を用いて、生徒の反応や印象、さらには学習への意欲にどのような影響を与えるのか、未知の状態での授業実践であった。また、新出単語練習は映像と同時に、音楽を使ったチャンツの練習を行った。

(2) 予備実践の結果と成果

- ・金沢大学附属中学校 1 年
- ・実施日 2016 年 9 月 5 日
- ・アンケート対象人数 78 人

5 段階表記

高 5 4 3 2 1 低

表 1 授業は楽しかったですか？

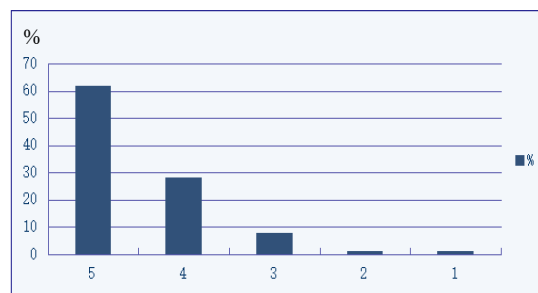


表 2 授業は意欲的に参加できましたか？

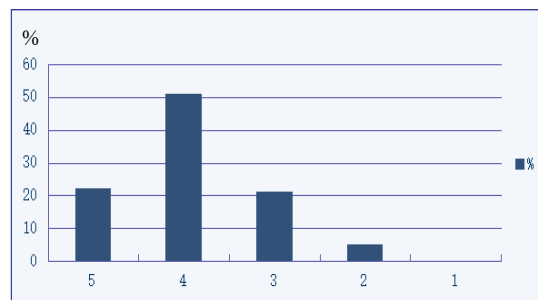
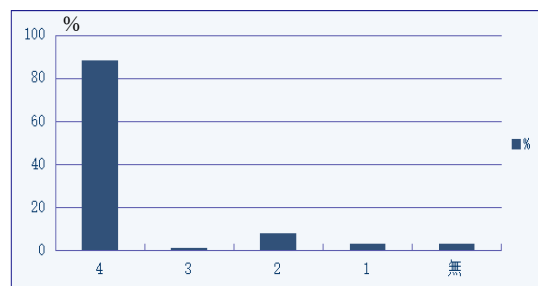


表 3 新出単語の紹介の時に音楽をならしながらリズムに乗って紹介したのは良い取り組みですか？



アンケート結果では、「英語の授業が楽しい」は肯定的な回答が 9 割を占めた。(表 1)



写真 1 音読練習の様子

また、「授業は意欲的に参加できますか？」では肯定的な回答が 73%と 7 割以上を占めた。(表 2)

新出単語に関する映像教材では、88%が良い

取組であると回答している。(表 3)

新出単語を 4 拍子のテンポを伴う曲とともに工夫した提示の仕方は参加しやすい状況を作り出せたのではないかと考える。

今回のアンケートでは記述式の設問も設け、記述からも成果がうかがえた。(図 1)

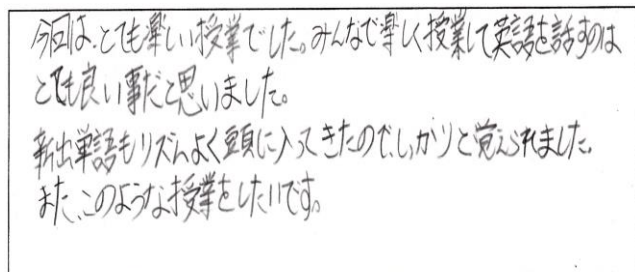


図 1 予備実践のアンケート記述

他にも多くの肯定的な意見が生徒の感想から得られた。そして 2017 年度へ向けより具体的な活用方法と検証方法を考えた。

4 研究方法と検証法

(1) 研究の方法

英語科の授業において本研究で考案した「教科書を映像化した ICT 教材」を使用する。

(2) 研究の検証法

①理解力は向上するのか。

②どのような活用の展開がより効果的なのか。

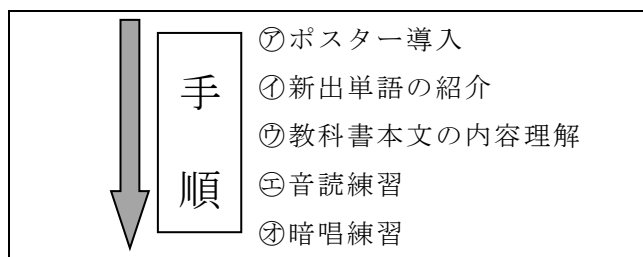
以上に関して 2 回のアンケートを実施し、その有効性と問題点を明らかにしていく中で改善・改良を行い研究の目的に迫る。

最初に紹介したように諸事情によって授業に参加することが困難な生徒を参加に向かわせていくことが、学級全体にも有効に働くことを期待する。

II 研究計画

1 視覚教材の具体と手順

教科書の本文を取り扱う教材を、次の手順⑦～⑩に沿って教材を紹介していく。



NEW HORIZON 2 English Course の Unit 2 Dialog(P20)を例に説明する。イギリスの空港に降り立った光太が係員に入国審査を受けている場面がある。次の会話である。

係員：Show me your passport, please.

光太：Sure. Here it is.

係員：What's the purpose of your visit?

光太：Sightseeing.

係員：How long are you going to stay?

光太：For five days.

係員：Where are you going to stay?

光太：At my sister's house in London.

係員：I see. Enjoy your stay.

光太：Thank you.

以下に、この題材での ICT 教材の具体的な活用の仕方を示す。

⑦ポスター導入



図 2 導入時の「1 枚のポスター」

本文の導入時、本文内容の全体把握をする際に、全体の内容を「1 枚のポスター」に映像化して提示する。ポスターには本文の内容を英文とイラストで表している。(図 2)

“What can you imagine from this poster?”

「このポスターから何がわかりますか？」と質

問し、本文の内容を推測させる。次にリスニングを行う。この際、リスニングのポイントとして最初に質問を示し、次に本文の内容を聞く。リスニング後は、答えの確認を行う。以下にリスニングで活用する映像を示す。(図 3)



図 3 リスニングの Q&A

①新出単語の紹介

英単語の意味をイラストで映像化することで習得の助けとなると考え、単語をイラスト化し音声と共に提示する単語用の教材を考えた。単語を提示し、英単語を映像と音声と共に理解させる。(図 4)

さらに生徒の集中力を高めることを目的に、提示する際に、リズムマシンで 4 拍子のリズムでテンポよく提示する。



図 4 (例)新出単語を映像化したもの

以下のように教師のあとに続けて発音する。

教師：passport	教師：sightseeing
生徒：passport	生徒：sightseeing
教師：officer	教師：stay
生徒：officer	生徒：stay

②教科書本文の内容理解

教科書本文の内容を映像化した教材である。音声と共に提示する教材を考案した。

イギリスの空港に降り立った光太が入国審査を受けている場面の本文を映像化して示すと以下のような教材となる。以下に示す教材は係員と光太の会話のやり取りの一部を示したものである。(図 5,6)



図 5 ①係員：Show me your passport, please.



図 6 ②光太：Sure. Here it is.

上記の映像化教材を教師の音声と同時に見ることによって、内容を理解することが容易になる。

③音読練習

音読練習の手順は以下の通りである。

まず、映像を見せながら教師の音声を生徒がリピートする。

次に、画面上で消えていく英文を読む。これはマイクロソフト社のパワーポイントのアニメーション機能を使用している。

メーション機能を使い、一瞬見えて消えていくようにしたものである。生徒は英文を、記憶と頭の中にある英文法を頼りに再生し読み上げていく。(図 7)



図 7 音読練習時の映像

教師：Show me your passport , please.

生徒：Show me your passport , please.

次に(a)→(b)→(c)の流れで消えていく英文を読む。残像を頼りに英文を思い出して読むことが、次の暗唱練習への橋渡しとなる。(図 8)

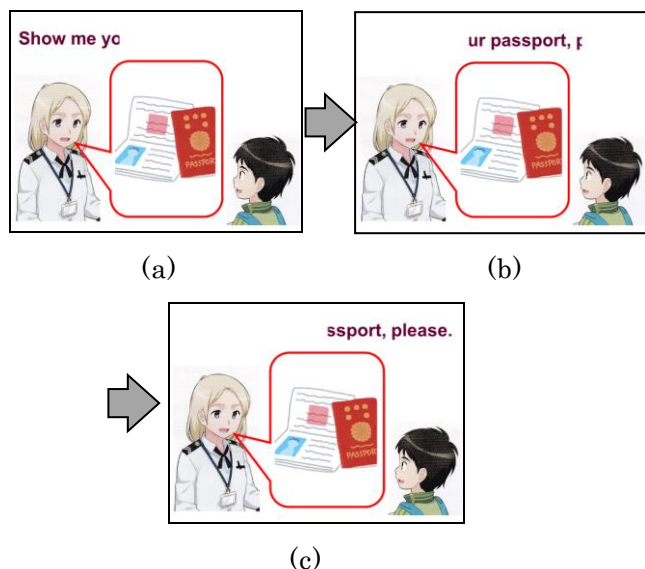


図 8 英文が消えていく音読練習の映像

㊥暗唱練習

音読練習の後に、これまで活用してきた教材を活用して暗唱練習を行う。

暗唱練習とは、本文の内容理解で使用した教材を活用する。英文が載っていないスライドを使用し、画面だけを見てどれだけ言えるか暗唱に取り組む。具体の一部を以下に記す。(図 9)

暗唱活動の例（この画面が出てきたら）

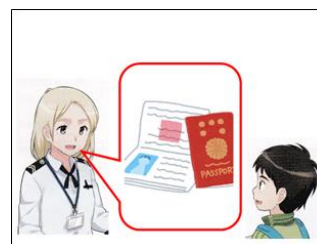


図 9 暗唱時の映像

生徒：Show me your passport, please.

文のない映像が出てきたら、その画面に合わせた英文を思い出し暗唱する。

2 研究の進め方

(1) 研究期間と研究を行う学校

2016 年度は、金沢大学附属中学校において予備実践を行った。これを踏まえて 2017 年度は、金沢市立鳴和中学校において 1~2 学期(4 月~12 月)を通して行った。

(2) 研究の進め方

本研究では 4(2)でも示したように、主にアンケート結果を資料としてまとめを行う。また、実際に授業した際の生徒の雰囲気や様子、授業者が授業を行った実感も合わせて考える。

Ⅲ 研究実践(1 学期)

1 2017 年 1 学期の実践

(1) 鳴和中学校での実践へ

2017 年度は、ほぼすべての単元で開発した教材を使用し実践した。

研究クラス	2017 年度	金沢市立鳴和中学校
	2 年 1 組	39 人
	2 年 2 組	40 人
	2 年 3 組	39 人
	2 年 4 組	40 人
	1 年 5 組	29 人

(2) 生徒の実態

2 年生 4 月に実施された進級テストでの英語

の結果を見ると、生徒達の中に大きく学力差が生じていることがわかった。1年生の基礎学力が身につけている子とそうでない子との差は歴然としていた。英語が苦手な生徒は、基本となる英語の文法や語順が理解できていない深刻な状況であった。

例えば、絵美さんに関して与えられた日本語の情報から、絵美さんの1日の生活を英語で作文する問題では、次のような英文例があった。

4月進級テスト

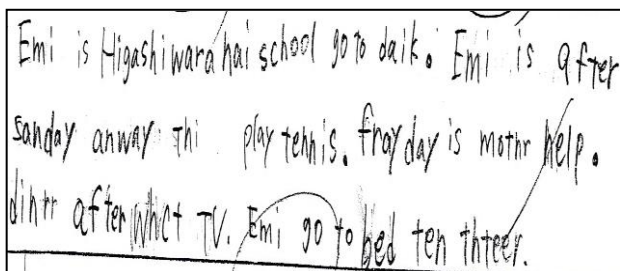
次の絵美さんに関する生活情報を5文以上の英語で書きなさい。

絵美さんの情報

- ・東原中学校へ自転車で通う。
- ・月～木曜日は、放課後にテニスをする。
- ・金曜日はお母さんのお手伝いをする。
- ・夕食後にテレビを見る。
- ・10時半に就寝する。

上記の日本語情報を英語で表現するのだが、その一部の解答例を紹介する。少し読みづらいが、実際の生徒のテストの解答である。

進級テストの解答



(上記の解答を下に記す)

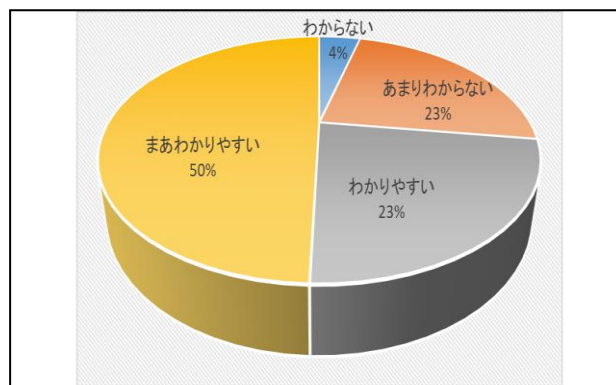
Emi is Higasihawara hai school go to daik. Emi is after sanday anyway Thi play tennis. Frayday is mothr help. Dintr afterwhet TV. Emi go to bed ten thteer.

「1年時の授業はわかりやすかったですか」というアンケートには7割強が肯定的な回答をしているが(表4)、文法・語順・単語・代名詞の基礎が身につけていないのが進級テストの結果から見える。

それで進級テストの結果を分析すると1年生の基礎が身につけていない生徒の割合は約半数に上った。しかし、このような状況だが2年生には素晴らしい要素があった。それは大変素直な生徒達で、規律を意識し、真面目に物事に取り組むことができる学年集団であるということだ。

さらに、この年は1年生5クラスの中の1学級、英語の授業を受け持つこととなった。こちらの方は小学校から進級したばかりの生徒である。

表4 1年次の授業はわかりやすかったですか？



(3) 研究計画(1学期)

2017年1学期は以下のように研究計画を立てた。以下の単元と目標において教科書の映像化を試みた。教科書は NEW HORIZON English Course BOOK 1(東京書籍)である。

研究計画 1年生

- Unit 1 はじめまして
- Unit 2 学校で
- Unit 3 私の好きなこと
- Unit 4 ホームパーティ

研究計画 2年生

- Unit 0 My Spring Vacation
- Unit 1 A Friend in a Sister School
- Unit 2 A Trip to the U.K.
- Unit 3 Career Day

2 具体的実践例

(1) 研究実践(1 学期)

2 年生の 4 月に行った最初の単元である Unit0 の授業実践である。

春休みに家族旅行で福井旅行から戻ってきた主人公の安藤 咲(あんど う さき)が福井県の恐竜博物館を訪れ、家族で越前そばを食べたことなどを Show and Tell としてクラスで発表している場面である。その後、発表を終えた咲に対して、クラス内ではいくつかの Q and A が行われる。授業の展開としては、咲のスピーチを参考にして、生徒自身の過去の出来事についてスピーチを行う。

Unit 0-1 Show and Tell

(NEW HORIZON 2 English Course P4)

Hello, everyone. I'm Ando Saki. I went to Fukui with my family two weeks ago.

This is a picture of a dinosaur museum. You can get a lot of information about dinosaurs and natural history at the museum. We enjoyed delicious food, too. For example, we ate *Echizen* soba.

We had a good time. Thank you.

授業の課題は以下のように設定した。(図 10)

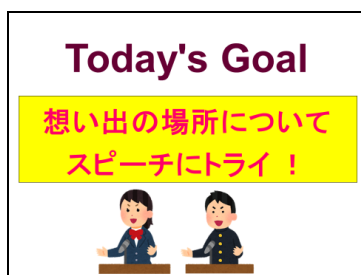


図 10 授業の課題

では、この実践の取組手順を以下に示す。

(2) 授業実践例

㊦ 本文導入

本文の内容の導入として「1 枚のポスター」(図 11)を見せて、次のように生徒に語りかけた。



図 11 1 枚のポスター

先生: “What is this poster about ?

Please talk with your partner.”

生徒: . . .

先生: 「何のポスターでしょうか？」って

聞いていますよ。ペアで話し合ってみて下さい。日本語でいいですよ。

生徒: (ペアで話し出す)

生徒は、ポスターから推測される本文の内容を考えた。

先生: “Do you have any idea? ”

生徒 A: 咲が 2 週間前に家族で福井に行った。

先生: “OK. Saki went to Fukui with her family two weeks ago. OK. Very good. Any other ideas? ”

生徒 B: 咲が家族旅行へ行ったのだと思います。

先生: “This is a poster about spring vacation. ”

内容に関する意見が出た後に、リスニングへ移った。リスニングの前に、リスニングポイントを与えた。リスニング後は答え合わせを行った。その際には図 12 の映像を使用した。

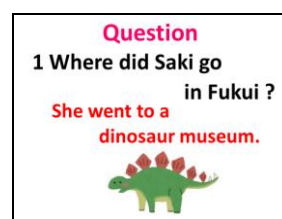


図 12 リスニング No. 1 の Q&A

先生 : So. First question. Where did Saki go in Fukui?

生徒 : …… (答えがわからない様子)

先生 : OK. You can talk with your partner.

生徒 : (ペアで相談)

先生 : OK. Anybody?

生徒 A : She went to dinosaur museum.

先生 : OK. Good job.

先生 : Next question.

What did Saki eat ?

生徒 : (10 名程手が上がる)

先生 : おー。B さん。

生徒 B : She ate Echizen Soba.

(拍手があがる)

先生 : Thank you very much.

①新出単語練習

次に下の図 13 の映像で 2 つ目の確認を行った。

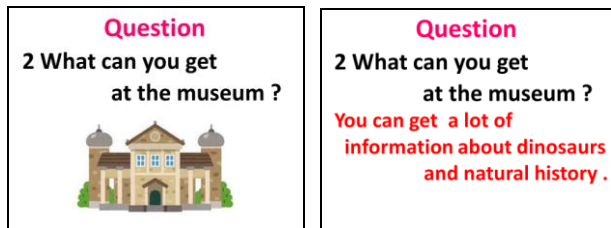


図 13 リスニング No. 2 の Q&A

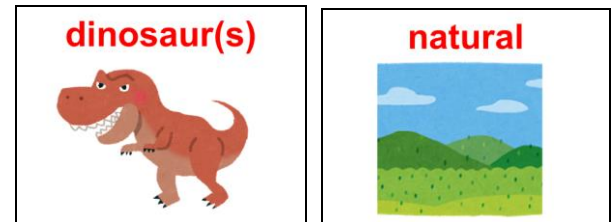


図 15 英単語紹介時の映像

先生 : Next question.

What can you get at the museum?

You can talk with your partner.

生徒 : (ペアで相談)

先生 : Not perfect answer. All right?

(なかなか手が上がらない)

A さん?

生徒 A : えーと。You can get... You can get a lot of dinosaur and natural history... あれ、あれ You can get a lot of information dinosaur and natural history at the Museum.

先生 : Very good. (拍手)

上の映像(図 15)で単語紹介と発音練習を行った。(実際の映像を一部抜粋 実際は 8 枚使用)

上記の映像をフラッシュさせ、4 拍子のリズムマシンと共に紹介した。教師の後について生徒が単語の発音練習を行った。生徒達は大きな声でリピートした。

②教科書本文の内容理解

次に教科書の内容を理解するために以下の文章を読み上げながら、教科書を映像化した教材をスライドで紹介した。

次に図 14 の映像で 3 つ目の確認を行った。



図 14 リスニング No. 3 の Q&A

先生 : “Hello, everyone. I'm Ando Saki. ”

(「咲」の絵が出る)

先生 : “I went to Fukui with my family two weeks ago.”

(「福井」「家族」等の絵が出る)

先生 : “This is a picture of a dinosaur museum. ”

(「恐竜博物館」の写真が出る)

先生 : “You can get a lot of information ”

(「情報を得る」の絵が出る)

(一部分のみ紹介)

以下は実際の授業で使用した映像化教材である。(図 16~18)



図 16 内容理解時の映像

- ①Hello, everyone. I'm Ando Saki.
②I went to Fukui with my family two weeks ago.



図 17 内容理解時の映像

- ③This is a picture of the dinosaur museum.
④You can get a lot of information

㊦音読練習

内容を紹介した後に、音読練習を行った。

まず、映像を見せながら教師の音読を生徒がリピートした。



図 18 音読練習時の映像

次に、英文を見せて本文を読ませる。その際、文章はアニメーション機能で一瞬見えて消えていく。生徒達は大きな声で音読を行った。

すべての英文を読み上げた後、“Your reading is very good. Now recitation.”と言って次に暗唱の活動へ入っていった。

㊦暗唱練習

音読練習の後に、映像教材を活用し、暗唱練習を行った。英文が載っていないものを使用し、画面を見てどれだけ言えるか暗唱に取り組んだ。暗唱となるとなかなか難しいようで、音読ほど全体の声が出ていない感じがした。1時間の授業の中で暗唱を行うとなると、まだ暗唱できていない様子でもあった。

(3) ゴールへ向けての活動

その後、今回の例文を参考にして本授業の課題である「思い出の場所についてスピーチしよう」へと進んだ。

まず、次のように教師がスピーチを行った。

“Hello. I went to *Kenrokuen* with my friends two weeks ago. I went there on foot. I bought a key chain. I ate *hanamidango*. Cherry blossoms in *Kenrokuen* were very beautiful. I had a good time. Thank you.”

Hello.
I went to **Fukui**(場所)
with **my family**(人)
two weeks(何日前) ago.
I went there by **car**.
(**on foot** 歩いて)
(自由に作文)
I **bought**(買った)～.
I **ate**(食べた)～.
I had a good time.
Thank you.

図 19 課題を達成するための参考英文の映像資料

“Now it's your turn. You are going to practice. Make your group. You are going to have a speech in your group. Now I will give you three minutes. So please practice by yourself. 自分で作るんだよ。”

その後、生徒はここで練習した本文を例に、思い出の場所についてスピーチの原稿をノートに書くことなしに考え、映像資料(図 19)を参考に文を言う練習を行った。

生徒達は 4 人(または 3 人)グループになり、一人ずつ即興でスピーチを発表した。聞き手にはリアクションをすることを求め、発表後には褒め言葉を言うように伝えた。(写真 2)



写真 2 即興スピーチでグループ発表の様子

その後、できるだけスピーチを覚えようと呼びかけ、生徒はそれぞれ練習した。

次に、別のグループへ行きスピーチ発表をした。スピーチが終わったら、そのグループのメンバーとハイタッチをする。ハイタッチが終わると発表者は元のグループに戻った。(写真 3)

緊張や不安の中でスピーチを行った生徒も多いように見えたが、スピーチを滞りなく進めることができた。



写真 3 スピーチ後にハイタッチをする様子

その後、全体発表を行った。発表の希望者を募り 2 名の生徒が発表した。

発表後、今日のスピーチで発表した内容をノートに書いてくるように宿題の提示をし、授業を終えた。

下の英文(図 20)は、思い出についての原稿である。

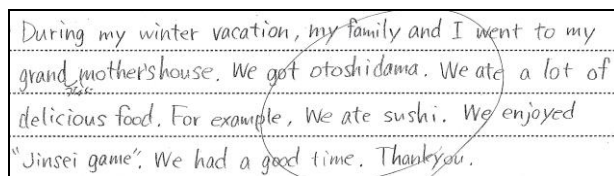


図 20 冬休みにしたこと

IV 実践結果とまとめ(2017 年度 1 学期)

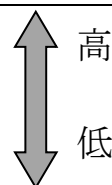
1 実践結果(1 学期)

(1) アンケート方法

鳴和中学校 2 年生 149 人を学力別に 4 つの集団に分類した。また、1 年生 29 人は 3 つの集団に分類した。

これはアンケートの結果を学力別に分類することで、授業の取り組み方や効果などの判断材料としていくことを目的に行った。

- ・ Group1 (G1 第 1 グループ)
- ・ Group2 (G2 第 2 グループ)
- ・ Group3 (G3 第 3 グループ)
- ・ Group4 (G4 第 4 グループ)



※ 2 年生は G1~G4 に分類

1 年生は G1~G3 に分類

(2) アンケート結果

表5 全体的にICTを活用した授業はわかりやすいですか？

4 とてもわかる 3 まあわかる 2 あまりわからない 1 わからない

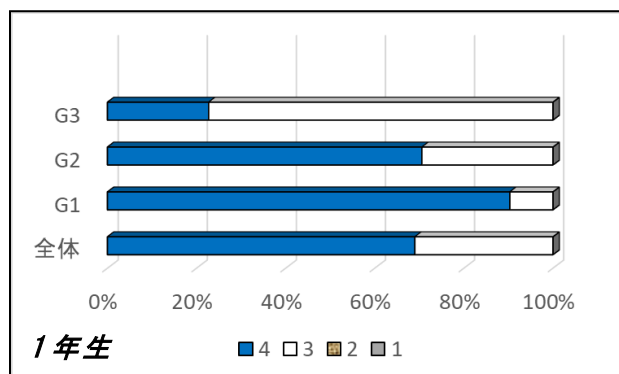
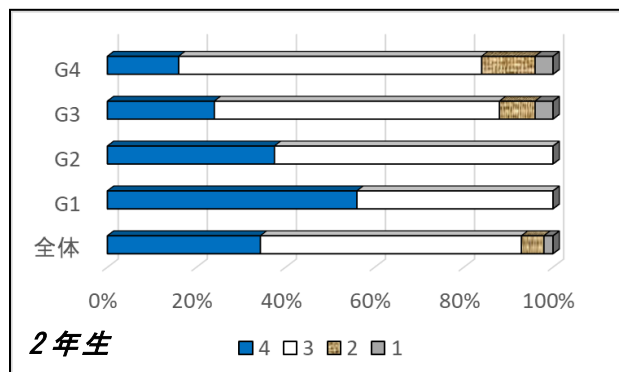


表7 「新出単語」をリズムと共にイラストで紹介すること
で意味は理解できますか？

4 できる 3 まあできる 2 あまり 1 あまりできない

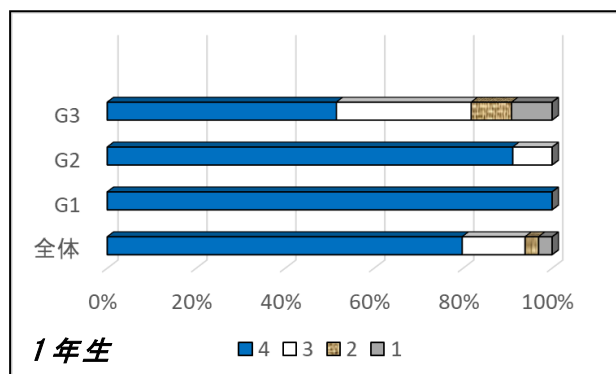
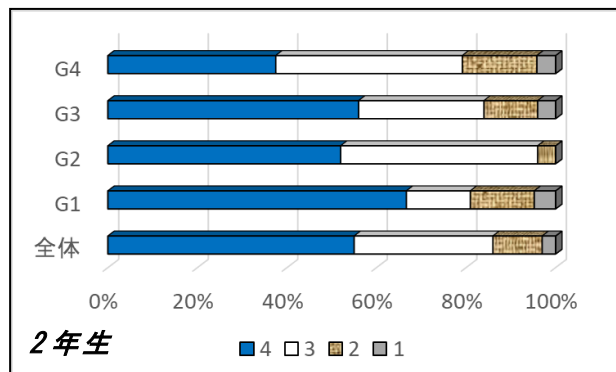


表6 最初に①「ポスターを紹介しQ and A」をしますが、
この入り方はよいですか？

4 よい 3 まあよい 2 あまり 1 よくない

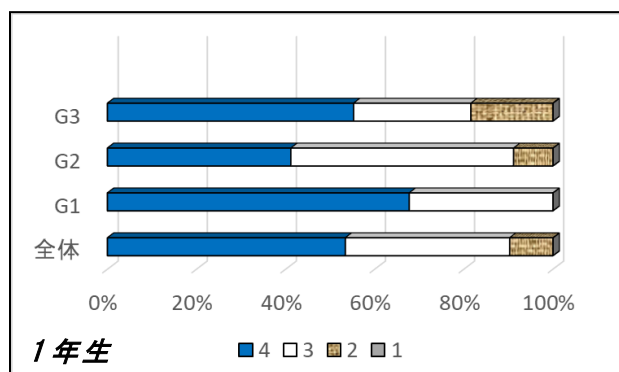
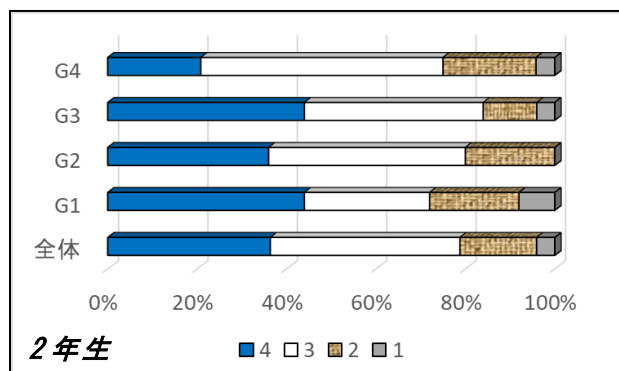


表8 「本文を映像と音声で紹介」しますが、
教科書本文の内容は理解できますか？

4 できる 3 まあできる 2 あまり 1 できない

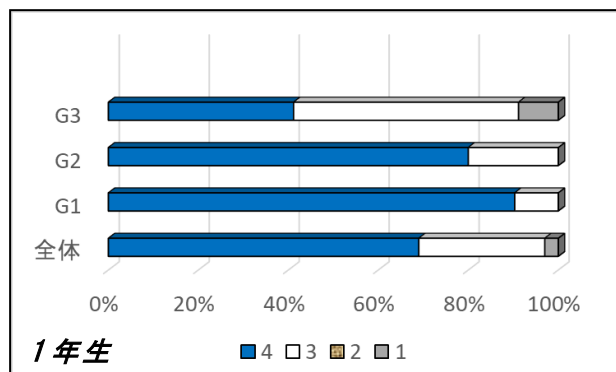
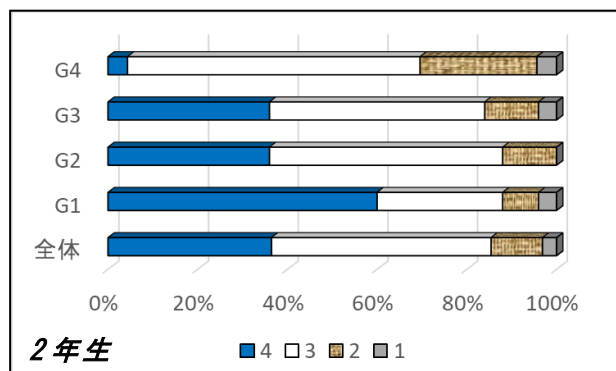


表 9 「音読練習（リピート → 消えていく英文を読む → まとまった英文を読む）」英文が消えて読む練習をすること、読むことに意欲的になれますか？

4 なる 3 まあなる 2 あまり 1 ならない

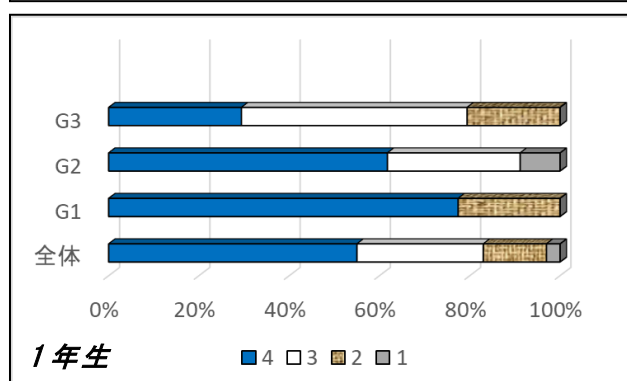
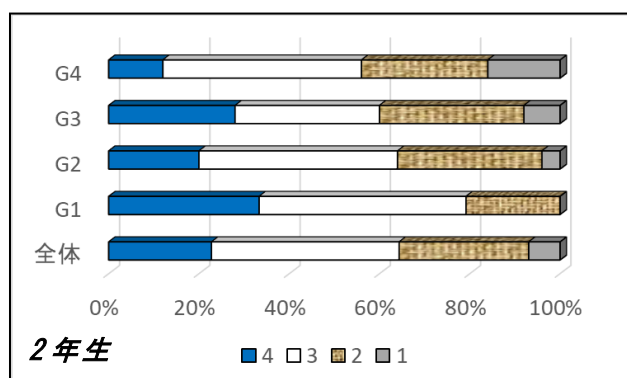
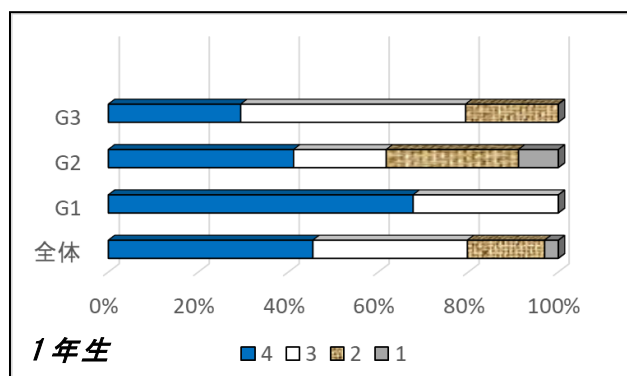
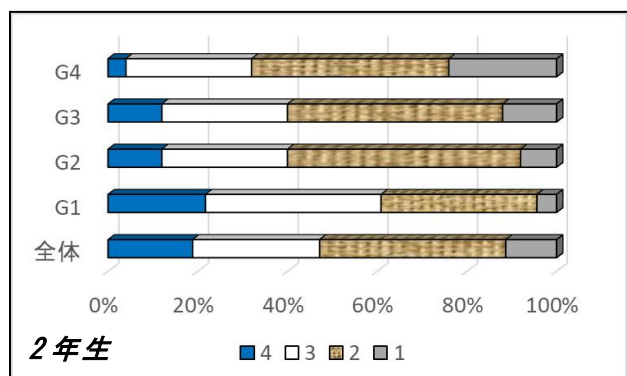


表 10 「暗唱に挑戦する」は意欲的になれますか？

4 なる 3 まあなる 2 あまり 1 ならない



2 実践のまとめ（1学期）

(1) 1学期のまとめ

本研究で使用した映像化教材の効果について、1学期の取組を概括すると以下ようになる。

教科書の映像化教材を活用することによって授業がわかりやすくなった。しかし、その細部においては改善が必要である。

9割以上が ICT を活用した授業はわかりやすいと回答をし、全体的にはわかりやすさが証明されたと考えられるのではないだろうか。

また、どの質問も英語が得意な集団になれば肯定的な割合が高く、苦手な集団になれば否定的な割合が高くなる傾向があった。

(2) 2学期への改善点

本研究の映像化教材の改善を以下のように行った。

① 「本文の導入時」

問題点はパワーポイントでスライドを次々と進めていくことであった。質問のスライドを次々と見せることが、前の質問を覚えていない状況を作ってしまった。

そこで展開のスピードを落とすため、リスニングポイントの Q を黒板に板書するなどして展開のスピードを落とし、導入部分の理解度向上に努めた。このような導入の工夫でポスターは改善することができる。

② 「新出語句の紹介時」

新出単語の場面での活用は、楽しいという意見が多かったが、その反面、単語の発音がリズムに乗っているので十分にわからないという意見もあった。

そこで、まず教科書準拠の CD にて単語を一つずつ確認する。次に、新出単語はリズムに乗って紹介する。このように 2 回行うことによって少し時間を要するが新出単語をさらに詳しく知ることできる。

③ 「本文の理解時」

本文の内容が絵やイラストにしづらい抽象的な内容では、映像化教材を本文の内容紹介としては扱わないかわりに、教科書準拠副教材のDVDを活用した。

これは本文の内容をわかりやすく実写化したビデオであり、教科書の内容が実写版の登場人物により演技されている。このように利用できるものは利用し、すべてを自作した教材でという縛りをなくすことにより、時間的な余裕も生み出すことができる。

④ 「音読練習時」

音読練習では、消えていく英文に難があることが見えてきた。英語が苦手な生徒ほど消えていく英文に消極的な姿勢を示すことがわかった。

消えていく音読を行う際には、ある程度音読練習ができていなければならないと考えた。そこで、消える音読の前に 1~2 分間生徒に個人練習をする時間を与える。この時間の中で読めない単語などがあれば、ガイドシード（教科書本文の意味や読み方が書かれた冊子で学期の最初に配布される冊子）やペアのパートナーに読み方を確認し、練習する。

これだと事前に練習する時間があるため、苦手な生徒達も少しは安心して読むことができるのではないか、と考えた

⑤ 「本文の暗唱時」

暗唱は、「難しい」「1 時間では無理だ」などといった意見が多数あった。しかし、学力上位層では「やりがいがある」と感じている生徒もいた。アンケートの数値を見ても暗唱については 2 年生の長文などになるとなかなか難しいと感じているようだ。

しかしながら、英語の運用能力を高める上で中学校段階の基本文が口から自然に出てくるようになるのが望ましい。最初は不完全な文であっても練習を続けることで少しずつ暗唱で

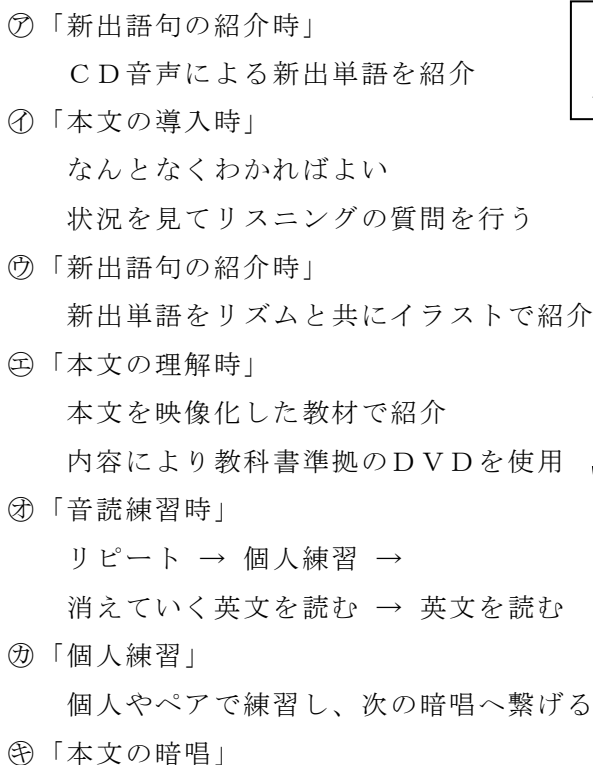
きる文が増えていくものと信じ、努力目標として継続していくことにした。

V 研究実践 (2 学期)

2017 年 2 学期の実践と具体例

(1) 2 学期 映像化教材の手順

1 学期に考えた改善点を踏まえ、教科書映像化教材の活用方法を次のような手順で行うこととした。2 学期では改善点に従って㉗~㉙の基本となる活動の流れを組んだ。



(2) 研究計画 (2 学期)

1 年生

Unit 5 学校の文化祭
Unit 6 オーストラリアの兄
Unit 7 ブラジルから来たサッカーコーチ
Unit 8 イギリスの本
Unit 9 チャイナタウンへ行こう

2 年生

Let's Read 1 The Carpenter's Gift
Unit 4 Homestay in the United States
Unit 5 Universal Design

Unit 6 *Rakugo* in English

(3) 研究実践 (2 学期)

1 学期の実践を踏まえ、教材、指導法のいくつかを改善し、改めて実践に取り組んだ。2 年生の New Horizon Unit 5-2 での実践を紹介する。

Unit 5 の単元は、昨今日常生活に浸透しつつあるユニバーサルデザインが紹介されている。本文を通して、製品化された事例、身近な施設での採用例などに生徒の目を向けさせることができる。

言語材料では、接続詞の *if / when / because / that* などが扱われる。これらを用いて、ある条件で何をするかを述べたり、自分の意見とその理由を述べたり、どんな時に何をしたかをのべたりする場合の表現を習得させる言語活動を展開できる。

上記の言語材料も駆使しながら、単元の最後には各自が調べたユニバーサルデザインの紹介を行い、様々な製品の良さや施設の工夫を共有しあうことができる。

この単元の締めくくりとしてシンガポールの南僑(ナンチャウ)小学校(Nan Chau Primary School)の児童に紹介し、ユニバーサルデザインの魅力を発信することとした。

Unit 5-2 ユニバーサルデザイン

(New Horizon English Course BOOK 2 P70)

Kota : I mistook the shampoo for the conditioner last night. I washed my hair twice.

Deepa : Did you know that shampoo bottles have bumps?

Kota : Bumps ? No , I didn't.

Deepa : It's a universal design.

Kota : What's a universal design?

Deepa : It's a design for everyone.

I think universal designs are great.

Unit 5-2 では、登場人物の光太とディーパの会話を真似して言うことを課題とした。(図 21)



図 21 授業の課題

㊦「新出語句の紹介時(CD 音声)」

最初に新出語句の紹介をした。これは 1 学期の反省を受けて、最初に新出語句を紹介してほしいという意見を受けて行った。黒板に新出語句を貼り、CD の音声に合わせて生徒達はリピートした。その後、日本語の意味を確認した。

㊦「本文の導入時」

次にポスターを見て、ここで扱う本文はどんな内容なのかを想像させた。



図 22 1 枚のポスター

この後、ポスター(図 22)を見ながら、リスニングを行うが、リスニングの前に次の質問をした。

先生 : "Before you are going to listen to the conversation, I'll ask you two questions."

"Question 1. How many times did Kota wash his hair?"

"Question 2. What is the Universal Design?"

2つの質問をしてからリスニングをした。

1 回だけではなかなか聞き取れない生徒もいたので、2 回音声流した。そして

先生 : “How many times did Kota wash his hair ? ”

と聞くと数人手が上がり指名し、

生徒 A : “He washed his hair twice.”

先生 : “That’s right.”

“What is the Universal Design ? ”

再び数人の手が上がり、

生徒 B : “It’s a design for everyone.”

先生 : “Very good.”

以上で最初の導入を終えた。

㊦「新出語句の紹介時」

新出単語をリズムと共にイラストで紹介

次の映像(図 23)で単語紹介と発音練習を行った。

(映像を一部抜粋、実際は 18 枚使用)

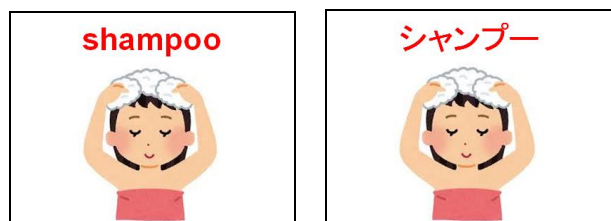


図 23 英単語紹介時の映像

㊦「本文の理解時」

この後、本文の内容理解へ進んだ。教師が本文を読み上げながら、スライドを次々と変えていき、生徒達が内容を理解できるように朗読した。(図 24~25)



図 24 内容理解時の映像

① I mistook the shampoo for the conditioner last night.

② I washed my hair twice.

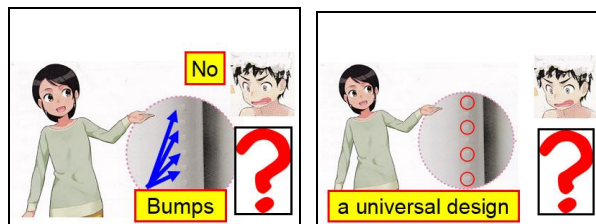


図 25 内容理解時の映像

③ Did you know that shampoo bottles have bumps? Bumps? No, I didn't.

④ It's a universal design.

What's a universal design?

㊦「音読練習時」

ここから音読練習に入る。上記のスライドで使用したものに、本文の内容を記したものを生徒達に見せて、先生のあとについてリピート練習を2回ずつ行った。下はリピート時の映像(実際は 11 枚使用)。(図 26)



図 26 音読練習時の映像

その後、以下に示したように、まとまった文を読む練習を行った。下はまとまった英文を読む静止映像。(実際は 5 枚使用) (図 27)

I mistook the shampoo for the conditioner last night.
I washed my hair twice.

Did you know that shampoo bottles have bumps?

図 27 音読練習時の映像

㊦「個人練習」

次に、2 分間の時間を与えて、各自で個人練習を行った。

“Please stand up. Please read for two minutes. OK? Ready go!”

生徒達には毎時間の授業で、この間に読めない単語があればペアに聞いてもいいし、ガイドシートで確認してもよいということを伝える。1 年生の学習内容が不十分な生徒もいるため、この時間で読めない単語をなくすという目的での設定である。

㊧再び「音読練習時」

2 分後、“OK. Please sit down.”「じゃあ、ちらっと英文が見えるので、読んでみてください。」といって、消えていく英文を見せた。生徒は、大きい声を出して、英文を読んでいた。(図 28 一部抜粋)

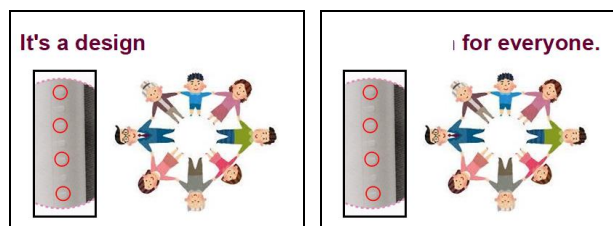


図 28 英文が左から右へ流れて見える動画映像

㊨再び「個人練習」

次に、ペアで光太役とディーパ役に分かれて、練習を行った。ペアは前後で入れ替わり、どんどん新しいペアで練習を重ねる。生徒達は立って椅子を入れ、教科書を持って向き合い、どんどん練習をしていった。なかなか読めない場合は、読み仮名が書いてあるガイドシートを見てもよいことを伝えた。

ペア練習が 5 回終わったところで、“Please close your textbook.”と言い教科書を閉じて言うように指示した。そうすると生徒達の顔は上がり声も大きくなった。この段階で、覚えられていない生徒達は、教科書をちら見しながら読んでいった。教科書を閉じて読むのは 2 回行い、ペアでの練習は 7 回行った。

㊩「本文の暗唱時」

次に、㊦教科書本文の内容理解で使ったスライドで暗唱練習を行った。

“OK. Please look at the TV screen.”

「じゃあ、みなさん記憶をもとにね、読んでみましょう。」と言い、実際に文字のない映像を流してみた。生徒達はたどたどしくも、記憶をよみがえらせながら英文を暗唱し、クラス全体としては大きな声で言えたことを確認して、授業を終えた。

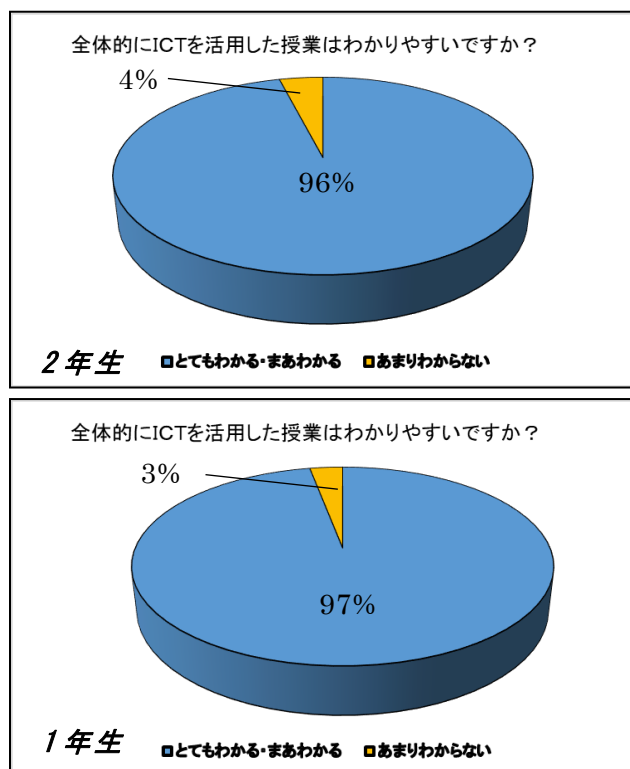
VI 結果と考察

1 結果

(1) 研究結果

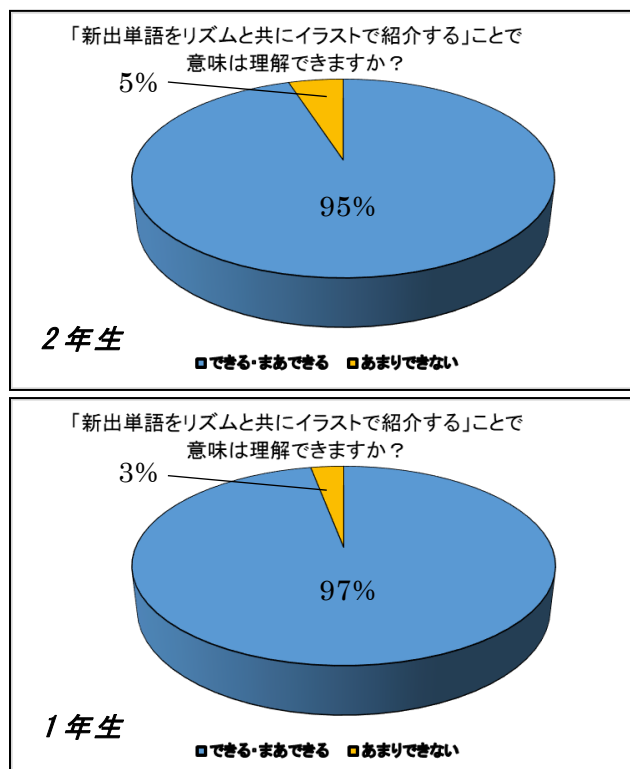
英語科の授業において本研究で考案した「教科書を映像化した ICT 教材」を活用した授業を行うことによって、次の結果を得た。

表 11 全体的に ICT を活用した授業はわかりやすいか？



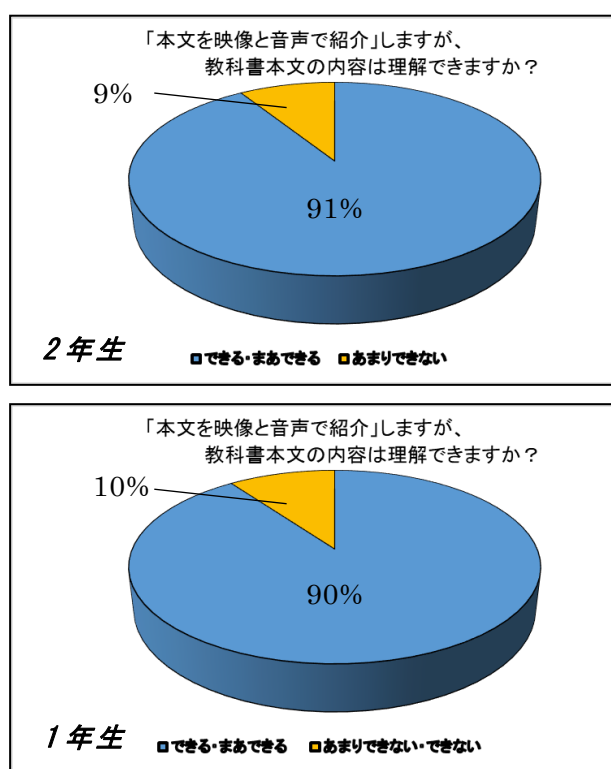
全体的に ICT を活用した授業で 9 割以上のわかりやすいという回答を得た。

表 12 新出単語をリズムと共にイラストで紹介する理解度



教科書の新出単語を映像化した教材を活用した授業では 9 割 5 分以上が肯定的回答をした。

表 13 本文を映像と音声で紹介する教科書本文の理解度



教科書の本文を映像化した教材を活用した授業でも 9 割以上が肯定的回答をした。

映像化の教材を使用するにあたり、導入から暗唱の一連の流れを設定し、どの手順が最もよい効果が得られるのかを追求した。

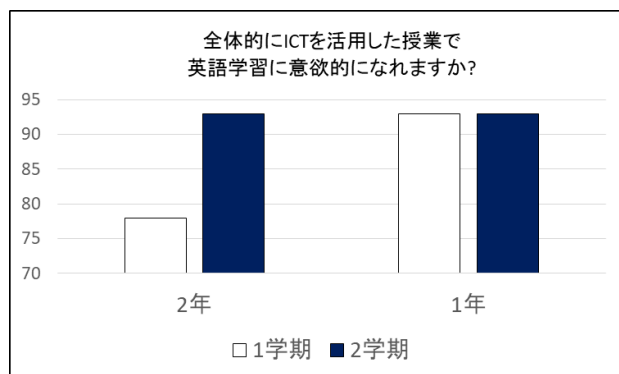
表 14 展開内容における結果（数値は肯定的回答）

展開内容	2年生	1年生
①最初に聞くCDの音声活用が本文内容理解に役立った	73%	90%
②ポスター紹介での導入がよかった	77%	93%
③リズムとイラストで新出単語が理解できた（上記記載）	95%	97%
④本文を映像と音声で紹介し内容を理解できた（上記記載）	91%	90%
⑤音読練習で英文を話しやすくなった	79%	94%
⑥個人練習が音読の助けとなった	82%	94%
⑦暗唱への挑戦で英文を覚えようと思った	72%	80%

上記のように、どの項目も肯定的な回答が70%以上を占めており、1年生ではすべての項目が90%以上になった。2年生では、高低の差があるが7割以上の生徒が肯定的回答した。

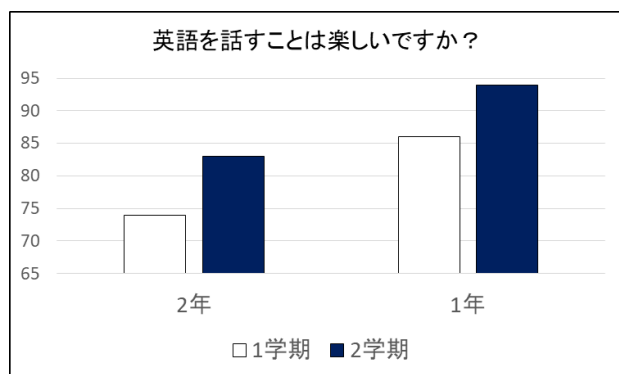
また、次に情意面を聞いた質問結果では次のような結果が出た。

表 15 ICT を活用して英語学習に意欲的になれるか



情意面に関する事項では ICT を活用することで英語学習に意欲的になれるかでは9割以上が肯定的回答をしており、特に2年生では1学期で78%だったが、2学期では93%に上がった。(表 15)

表 16 英語を話すことは楽しいか



英語を話すことが楽しいかを聞いたところ、両学年とも1学期から2学期にかけて数値の上昇が見られ、1年生で94%、2年生で83%が肯定的回答をした。

(2) 研究成果

「教科書を映像化した ICT 教材」を活用した授業を行ってきたが、この研究結果から理解力と映像化教材の展開の2点から述べてみたい。

先ず理解力であるが、全体的に ICT を活用した授業で多くの生徒達の理解力向上に役立ったと考えられる。アンケートの記述に多く見られたが、映像化した英単語と教科書本文の理解で高い数値を示しているのは、言葉だけではなく映像を映すことが、意味がわからないときの助けになり、多くの生徒達の理解力向上に役立ったものと見られる。

次に映像化教材を活用した展開であるが、導入からはじまり暗唱までの一連の展開に関しては、アンケートの数値から1年生では有効に、2年生では比較的有効に働いたと考えられる。

1年生では、中学校初年度の授業展開でもあり、一連の展開を特別意識することなく活動を行う生徒がほとんどであった。

しかし、2年生では、有効に働いているものの最初の導入段階と最後の暗唱段階で改善の余地があると考えられる。導入では、その時間に学習する大まかな内容が理解できるところを、暗唱では英語を覚えることによって達成感や確かな学力をつけることをねらったが、肯定的数値は7割強に留まった。アンケート記述等から推測すると、基礎学力の状況や2年生での英文量の増加など様々な要素が考えられる。今回、具体的な改善の方策を見出すには至らなかった。

以上のことから、研究の成果を以下のようにまとめることとする。

本研究で、英語科の教科書の英文と英単語をすべて映像化した授業を展開することによって、多くの学習者の理解力の向上に貢献する可能性が出てきた。特に、学習の初期段階の学習者にとってわかりやすい教材となったといえるが、中期段階で学習につまずいた学習者にとっては更なる展開の工夫を要する。

2 考察と今後の課題

(1) 考察

上記に述べた内容を鑑み、ここではさらに今後の取組に向けて更なる改善・留意すべき事柄

などについて深く考えてみたい。

本研究で使用した ICT の映像化教材では結果に表れているように、確かに手ごたえを感じるものがあつた。やはり映像は理解への大きな手助けとなるものであると実感した。しかし、大事なそれはそれをどのように展開し生かし英語の力をつけるかであつて、表面的な理解で終わってはならない、ということである。実践の場で生徒達にどれだけ浸透しているのか、指導者として肌感覚で対応していくことが必要であり、その点をどう見極め次なる展開に迫るのが大切になってくる。そのような展開を実践できてこそ、確かな学力を身に付けさせることができ、本教材の有効性に重みが出てくるものであると考える。

本教材を用いても「わからない」と回答した生徒達が数パーセントいるのも事実である。本文の内容理解に関しては学力が下がるほど、理解できない傾向があることが見えてきた。その原因は、基礎学力が不足しているなどにあつた。しかし、そのような状況でも「学習意欲」や「英語を話すことが楽しい」といった項目が向上することもアンケート結果から出ており(表 15,16)、より授業に参加しやすい状況を作り出していると思われる。ICT の効果は見られるものの、彼らには授業以外の対応やノートを介した個別の対応も必要となってくるのではないだろうか。本教材を使用しながら個別指導との両輪をうまく機能させる中で、全ての生徒達の理解力の向上を図る指導が理想であると考えられる。

(2) 今後の課題

一定の成果をあげた研究ではあるが、一つの問題は、映像化教材を作成するにはある程度の手間と時間がかかることである。しかし、校内外問わず教材を共有するなどの工夫を行っていけばこの点は解消される。一度作成し共有されれば、教科書改訂が行われるまでの数年間は活用できる。他の英語教員とも共有し、共に改

善に取り組むことができれば、さらに生徒達の理解に役立ち、生徒達を救う手立てとなるのではないかと考えている。

さらに、生徒が一人一台タブレットを使用できる時代もそう遠くはないだろう。その時代が到来すれば、活用方法はさらに可能性が広がるものであると想像する。

全てのタイプの生徒に力をつけさせることができる授業を目指し、実際に多くの生徒から肯定的な意見を得られたが、残念ながらすべての生徒からではなかった。しかし、例年学年後半には英語嫌いが増える傾向にあるが、英語学習に意欲を持ち続けている生徒が増加傾向にあり、おもしろいと思ってくれる生徒が学年の後半になっても多いことがこの研究の更なる可能性を示すものと位置づけ ICT 利用の次なる研究を続けていきたい。

参考文献等

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課

『通常の学級に在籍する発達障害の可能性
のある特別な教育的支援を必要とする児
童生徒に関する調査結果について』2012.

文部科学省委託事業

『ICTを活用した指導の効果の調査教育の情報化
に関する手引 第3章』

『NEW HORIZON English Course Teacher's

Manual 指導編』東京書籍 2016.

『NEW HORIZON English Course Teacher's

Manua2 指導編』東京書籍 2016.

『NEW HORIZON English Course 1』東京書籍 2015.

『NEW HORIZON English Course 2』東京書籍 2015.

『Sunshine English Course 1』開隆堂 2015.

『Sunshine English Course 2』開隆堂 2015.

映像内のイラスト：かわいいフリー素材集 いらすとや

<http://www.irasutoya.com/>